

子どもの素敵な言葉～子どもの権利保障は子どもの可能性を拓く～②

子どもの権利擁護委員 小林 央美



前回に引き続き、子どもの素敵な発言との出会いについて紹介します。

中学生の皆さんと、「子どもの権利について考えてみよう」ということで、学習会を開きました。はじめに、子どもの権利は、人間の歴史の中で失敗した事実があり、その結果として人々の幸せのために必要に迫られて生まれたことや、権利の内容や権利が無制限ではないことなどの基本を学びました。

その上で、価値葛藤が生じる場面を想定して、生徒同士の話し合いで解決していくという活動を行いました。その学習会の後に、生徒の皆さんが書いてくださった感想から紹介します。なお、感想はプライバシーの保護を最優先に、論旨に影響のない範囲で改変して提示致します。

自分の意見を持つことの深い意味

『自分自身が考えることをやめたら、自分の意見を持つことはできないと感じた。自分の意見を持つということは、相手に自分を知ってもらうことでもある』『意見を言える環境というのは、周りにだけ頼るのではなく、まずは、自分も変えていかなければならないということが大切だと思う』といった感想がありました。

自分自身の意見を持つことの大切さを感じ取り、自分自身の意見をしっかりと考えていこうとするエネルギーの萌芽を感じます。



異なる意見の受け入れ

価値葛藤が生じる場面を想定し、それについて意見交換をしながら、子どもは、こんなことを考えていたようです。『自分の考えを言うことができたので良かったと思います。これをふまえて、他の人の意見が違って、それはその人の考えがあるわけで、みんな違っていい。一人一人の価値観が違うけれど、否定から入るのではなく、そういう考えもあるのかという感じで、まずは他の人の意見を聞いてみる姿勢が大事だと考えさせられました』というのです。さらに、『一人一人、意見が違っておもしろかったです。気持ちが楽になりました』というように意見交換を楽しいとも感じていました。

子ども同士にちょっとした行き違いが生じると、大人は早急に「謝り合うという行動」で解決を急いでしまうことがあります。もしかするとこの解決方法は、子どもの成長するチャンスを逃しているのかも知れません。子ども同士が互いに解決していこうとする時間を十分に保証することで、子どもなりの解決策を見だし、そのプロセスは貴重な学びです。その積み重ねこそが自力解決の力と言えるでしょう。私たち大人は、ちょっと、立ち止まって考えてみる必要があります。